

平成 31 年度春の政策協議・個別協議の結果に関する情報共有について

平成 31 年 4 月 26 日

戦略企画部 企画課

総務部 行財政改革推進課

(今後の県政運営に向けて)

・「みえ県民力ビジョン・第二次行動計画」の次の計画の策定をはじめ、数多くの計画や条例の策定を行わなければならない年である。そのため、計画策定や施策の企画立案・展開にあたっては、以下の点に留意すること。

- ① 県民の皆さんをはじめ、県内市町、関係団体等の声をしっかりと聴き、県民に寄り添った計画となるようにすること。また、計画の中身だけでなく、検討するプロセスも大事にしてほしい。
- ② 計画策定にあたっては、未来を見据えた先駆的なものとなるように、“同業他者”の事例を比較検討し、三重県らしさを打ち出せるようにすること。
- ③ 現行計画の成果と課題を検証する際には、小手先の議論で終わらせないこと。特に地域の課題解決に向けて、現場の危機感や地域の想いなど県民の皆さんの肌感覚を感じ取ったうえで、県の役割を認識し、それぞれの施策を展開していくこと。
- ④ 施策の企画立案・展開にあたっては、常にアンテナを高くし、AIやICTなどの先端技術や新しい着想を積極的に取り込み、根本的・画期的な改善を行うこととし、職員の働き方改革にもつなげていくようにすること。
- ⑤ 業務の遂行にあたっては、受け身にならず、主体性をもって取り組むこと。また、進捗だけにとらわれることなく、地域や全国における状況、過去の分析、未来の検討など、業務を空間軸、時間軸で幅広くとらえること。
- ⑥ 計画や条例の策定、政策集の具現化に向けた施策の立案については、早期に議論してほしい。

(全庁的な連携)

・昨年度、成功裏に閉幕した全国高等学校総合体育大会（インターハイ）で得た成果を、全庁を挙げて、2年後に迫っている「三重とこわか国体・三重とこわか大会」にしっかりとつなげてほしい。

・インスタグラムを中心としたSNS戦略のように、部局独自の取組で一定の成果が出ているものがあれば、県庁内で横展開をしてほしい。

(コンプライアンスの徹底)

・県民の皆さんからの信頼回復に向けて、職員が一丸となって、覚悟を決めてしっかり取り組むこと。職員の能力を高めていくことや、職場でのコミュニケーションを図り、職員を孤立させないことが重要である。互いに支え合い、間違いを指摘し合えるような組織風土づくりを進めること。

(組織マネジメント)

・ワーク・ライフ・マネジメントの推進について、今年度は目標の最終年度である。また、働き方改革関連法に伴って時間外勤務の上限が設定されたこともあり、管理職はしっかりマネジメントすること。